

発言だが、厳しい環境の農業、その未来像とは何か。

A 市長 この地域にある資源としての農業は大切に、未来を描いていきたい。一方では成田空港の経済力を最大限活用する。企業、産業があれば誘致することも大切です。

Q 千葉県が市町村と協力し、企業誘致を進める支援制度を始めるが、市としても県と情報を密にし、誘致活動をすべきと思うかどうか。

A 市長 県としっかり協力を進めなければなかなか実現できません。県の情報を得ながら努力していきたいと思います。

Q 人口減について、合併後の転出者9千9百人のうち、20代から40代で60%以上を占めている。市長の感想は。

A 市長 人口減少社会は受け入れなければなりません。しかし、手をこまねいているわけではありません。地域環境にも勝ち抜けるような施策をしっかりと進める必要性は認識しています。

個人質問



岡倉 弘康 議員

公共交通について

Q 基幹バスの利用者が一日平均89・2人というのだが、一便あたりになると、何人になるか。

A 総務部長 月によってばらつきがありますが、4から6人くらいです。

Q 一人当たりの運賃が、非常に高いことになるが、本格運行になるのはいつか。

A 総務部長 実証実験運行を平成24年度で終了させ、25年度から本格運行に向けたと思っています。

Q 三重県玉城町を視察したが、玉城町では、町内147のバス停を作り、デマンドバスで運行している。市長も同席していたので、どう感じ取ったか。

A 市長 非常に有効なシステムが組まれているなという考えと、山武市は面積が大きいので、あのみま取り入れるのは難しいと感じました。

感じました。

Q 今後どのような本格運行をしていくのか。

A 総務部長 基幹バスは、合併後のそれぞれの地区、コミュニティを施設の利用も含めて、基幹的に回る足として運行しています。公共交通全体として、8千万円の費用負担を見込んでいます。市として、どのような公共交通を確保すべきか、本格運行の形は、現状ではまだこれからということですね。

Q 乗合タクシーの各地区の利用状況はどうか。

A 総務部長 10月から1月まで、蓮沼・松尾地区で5千809人、成東地区で1万6千762人、山武地区は4千679人です。

Q 山武地区の巡回バスから乗合タクシーに切り替えたが、利用状況の比較はどうか。

A 総務部長 スタート時の10月は、乗合タクシーのほうがかなり少ない利用でしたが、11月、12月と徐々に利用者が伸びてきています。

Q 乗合タクシーの利用は、基本的には地区内だが、市役所・松尾・T保健福祉センター・さんむ医療センターにはすべての地区から乗り入れできる。これに加え、大型店舗や「オーライはすぬま」の道の駅にも「2年配の方が買物にいい」の方策は取れないものか。

A 総務部長 限られた乗合タクシーの台数と、乗合という行程の中の時間を見ると、非常に難しいものです。

Q 現在、難視聴区域は、BSや、ひかりTV、ケーブルTVなどからテレビを見ているが、衛星放送からの地デジは、平成27年の3月までとなっている。その後の対策はどうか。

Q 地デジ対策について

A 現在、難視聴区域は、BSや、ひかりTV、ケーブルTVなどからテレビを見ているが、衛星放送からの地デジは、平成27年の3月までとなっている。その後の対策はどうか。

Q 現在、日本人の死因で、肺炎が4位となっている。平成24年度から肺炎球菌ワクチンの助成事業を行うようだが、その内容については。

A 保健福祉部長 平成24年度から、医師会の協力を得て、市単独助成という形で、75歳以上の方を対象に、1回2千円を助成する予定です。

Q 新聞や医師会の情報発信では、65歳になっ

また、山武市の難視聴世帯はどのくらいあるのか。

A 総務部長 現在、難視聴対象世帯は、1千862世帯です。特に、椎崎地区ではそのうち1千244世帯となっています。今後の対策としては、東京スカイツリーからの電波が送信された場合に、解消されれば問題ないということですが、それでも解消されなければ、その調査、測定をすることになっています。その結果によりまして、国や放送事業者が、新たな対策を講じることになると聞いています。

Q 高齢者肺炎球菌ワクチンについて

A 現在、日本人の死因で、肺炎が4位となっている。平成24年度から肺炎球菌ワクチンの助成事業を行うようだが、その内容については。

Q 現在、日本人の死因で、肺炎が4位となっている。平成24年度から肺炎球菌ワクチンの助成事業を行うようだが、その内容については。

A 保健福祉部長 平成24年度から、医師会の協力を得て、市単独助成という形で、75歳以上の方を対象に、1回2千円を助成する予定です。

Q 新聞や医師会の情報発信では、65歳になっ

A 保健福祉部長 スタートに当たって、そこま

たら肺炎球菌ワクチンをやろうと発信しているが、75歳とした理由は何か。

A 保健福祉部長 郡内で既に東金市が実施しています。郡内統一した形で、一回2千円の助成を決めました。今後の予算を確保する中、新たな社会保障の需要が見込まれる中で、慎重に対応すべきと判断されました。

Q 予算上では、大きい数字ではないので、65歳以上の方も、受けられる方策はないか。

A 保健福祉部長 65歳に引き下げた時点で、高齢者の方々の人口が倍近くになります。任意接種の単独助成ですので、75歳以上でやってみて、需要が高まった時点で、改めて見直したいと考えています。

Q 65歳から74歳までの慢性疾患や慢性腎不全、糖尿病、肝臓病で、医師が必ずと認められた人に対しての、助成はどうか。

A 保健福祉部長 スタートに当たって、そこま



市内を走る基幹バス